

地域で 海外で 命守る

<海外部門>



パレスチナ自治区のガザ地区。がれきが残る街で、映画を撮影する桑山さん（右から2人目。桑山さん提供）

18年からは、南スーザン難民が押し寄せるウガンダ北部で活動を始めた。神奈川県海老名市のクリニックでは、不登校児らのケアにあたる。

（パレスチナ自治区）

第48回医療功労賞
中央表彰者の10人

地域の医療や福祉、難病患者や海外医療の支援に尽力した人を表彰する「第48回医療功労賞」（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛）の中央表彰者10人が決まった。国内部門7人と海外部門3人の横顔を紹介する。（敬称略）

◇中央選考委員

永井良三 (自治医科大学長)	小山眞理子 (日本赤十字広島看護大学院長)
福島靖正 (国立保健医療科学院長)	鈴木俊彦 (厚生労働事務次官)
五十嵐隆 (国立成育医療研究センター理事長)	吉田 学 (厚生労働省医政局長)
宮崎雅則 (厚生労働省健康局長)	尾身 茂 (地域医療機能推進機構理事長)

石井則久
(国立療養所多磨全生園園長)
小山眞理子
(日本赤十字広島看護大学院長)
鈴木俊彦
(厚生労働事務次官)
吉田 学
(厚生労働省医政局長)
宮崎雅則
(厚生労働省健康局長)

桑山 紀彦 57 医師



パレスチナ自治区などで活動を続けてきた。「心の傷と向き合う子どもの存在を知つてほしい」と語る。

精神科医として経験を積み、1994年、ノルウェーに留学。トラウマ（心的外傷）

を抱えた人を支える心理社会的ケアを学んだ。主宰するNPO法人「地球のステージ」で2003年から、紛争が続くパレスチナ自治区で活動。

外務省の資金援助で、今も年

に2、3回赴き、現地スタッフ

と連携して年約240人の

子どもの支援をしている。

心に傷を負った子どもは、

記憶が抜けているたり、混乱し

ていたりする。PTSD（心

的外傷後ストレス障害）の状

態になる。絵や工作、音楽

などを通じて自分の体験と向かい合い、体験を表現する手助けをしてきた。

11歳の女の子は粘土で赤い女性を作った。2歳の頃、爆撃で亡くなった母親だ。「血まみれで死んだ」と聞かされ、悪夢に苦しんでいた。徐々に母の死を語れるようになり、2年後、この女の子と一緒に映画「ふしぎな石／ガザの空」を作成した。魔法の石を集め制作した。魔法の石を集めることで初めて前を向ける」。17歳になった女の子は、宇宙飛行士になる夢を持つまでに元気になれた。

「心の深い傷は、時間がたつても、触れずにそつとしておいても治らない。憎しみだけが残る。つらい体験に向かい合い、自分の中に取り込むことで初めて前を向ける」。17歳になった女の子は、宇宙飛行士になる夢を持つまでに元気になれた。

11年の東日本大震災では、NPOの拠点があつた宮城県名取市のクリニックが被災した。救護活動をしながら、3か月後には同市栗上地区で活動を始め、55人の子どもたちが体験を絵や音楽で表現するのに寄り添つた。

18年からは、南スーザン難民が押し寄せるウガンダ北部で活動を始めた。神奈川県海老名市のクリニックでは、不登校児らのケアにあたる。